公開フォーラム
アメリカ大陸古代文明の
神秘のベールをはがす

日時：2014年4月19日（土）13:30 - 17:00（13:00受付開始）
会場：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー（スカイホール）
参加費：無料 先着180名（申し込み不要）

日本から遠く離れたアメリカ大陸に成立した古代文明であるマヤとアンデスは、ついに神秘のイメージで語られていた、忽然と姿を消し、現代人が理解できない謎の工芸品や建築を遺したことをもって地球外生物の仕業とする見方もあいかわらず絶えることはない。しかし、古代文明の探究は、エキゾチシズムに基づく趣味の世界でもなければ、閉塞感の払う現代社会からの脱出を目的とするものでもない。むしろ、人間の創造力の結晶を探索することであり、今生きている社会の傲慢さを暴き、私たちの将来を照らす作業なのである。今回のフォーラムでは、古代文明の現場で活躍する研究者を招き、最先端の研究を紹介してもらうだけでなく、研究を実現していくまでの道のりについても大いに語ってもらう予定である。

写真：ケントゥル・ワシ多田

【プログラム】
13:30 - 14:20 基調講演「行きつどりアンデス古代 — アンデス研究をふりかえる」
大貫良夫（野外民族博物館リトルワールド館長・東京大学名誉教授）

14:20 - 14:30 休憩

14:30 - 17:00 シンポジウム 「古代文明の終焉」

パネリスト
青山和夫（茨城大学教授）「マヤ文明は古典期に崩壊しなかった：最新の調査研究から」
坂井直人（山形大学教授）「ナスカ社会と地上絵の終焉」
渡部実宏（南洋大学准教授）「国家に抗する社会ハマルカ」
佐々木正元（法政大学准教授）「アヤクチョの祭りと移民たち」

総合討論司会：関 雄二（国立民族学博物館教授）

主催：法政大学国際文化学部
国立民族学博物館・科学研究費補助金基盤研究（S）
「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」（研究代表者：関雄二）

共催：アンデス文明研究会・法政大学アンデス文化研究会

協力：古代アメリカ学会

この企画は、アンデス文明研究会20周年記念事業を兼ねます。
公開フォーラム：アメリカ大陸古代文明の神秘のベールをはがす

[講師プロフィール]

● 大貫良夫
東京大学名誉教授・野外民族学博物館リトルワールド館長。専門はアンデス考古学。コトシ遺跡、クントゥル・ワシ神殿発掘などから得られたデータを基に古代アンデス文明の形成過程を研究している。著書「アンデスの黄金 クンタ・ワシの神殿発掘記」（中公新書）、「夢の風景」（中央公論新社）、「黄金郷伝説エル・ドラドの森」（講談社現代新書）。

● 青山和夫
茨城大学教授。専門はマヤ考古学。グアテマラ、ボリビア、ペルーの各地の遺跡から、マヤの宗教、社会、経済、生活などの研究を進めてきた。著書「マヤの都市文明」（岩波新書）。

● 坂井正人
山形大学教授。専門はアンデス考古学、文化人類学。古代アンデス社会を対象とした考古学的研究を進めてきた。これまでネサ、インカ、チフー、チェンなど、数多くの遺跡で調査を行ってきた。著書「アンデス考古学」（岩波新書）。

● 渡部隆哉
南山大学准教授。専門はアンデス考古学。南米アンデス地域を発展したワリ国の発達過程、および地方支配の実態を、ペルー北部高地で調査研究している。著書「ワリ帝国の形成〜ワリ帝国の社会動態と構造」（春風社）。

● 佐々木直美
法政大学准教授。専門は文化人類学、ラテンアメリカ地域研究。ペルーの舞踊と現代社会を研究テーマとしている。著書「世界の先住民族 春米、バリ、南米」（明石書店）。

● 勝雄二
国立民族学博物館教授。専門はアンデス考古学、文化人類学。南米ペルーにおいて神殿の発掘調査を行い、アンデス文明の成立と発展に取り組んでいる。著書「アンデスの考古学」（同成社）、「古代アンデス 神殿から始まる文明」（朝日出版）。

第二部 『アンデス音楽』 17:10～17:50

演奏：「アンデス音楽」

● 演奏（ギター）：西尾彰子（ギター）
● 演奏（コンサート鋼琴）：藤野真奈（サンボーニーヤ）

【会場アクセス】

国立民族学博物館 関研究室 06-6878-8252 E-mail: sekiken@idc.minpaku.ac.jp